

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：64303

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23701011

研究課題名(和文) 現代中国における農村医療・衛生事業に関する歴史研究

研究課題名(英文) Historical study on the rural health services in contemporary China

研究代表者

福士 由紀 (Fukushi, Yuki)

総合地球環境学研究所・研究推進戦略センター・拠点研究員

研究者番号：60581288

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1950年代から70年代における中国における日本住血吸虫症対策に関する歴史資料の分析およびインタビュー調査などを通して、現代中国における農村医療・衛生事業の歴史的展開を実証的に把握することを目的とするものである。本研究では、(1)中国農村医療制度の歴史的展開と雲南省におけるその実態の把握、(2)中国農村医療システムの同時代における国際的評価の変遷、(3)雲南省における日本住血吸虫症対策の実態について検討した。

研究成果の概要(英文)： This study aims to explore the historical development of rural health services in China from 1950s to 70s through analyzing historical materials on schistosomiasis prevention and the data from interview. In this study, three topics were researched: 1) historical development of the rural health institution in China and its actual condition in Yunnan province, 2) historical change of assessment of China's rural health system from the international societies, 3) Actual condition of enforcing schistosomiasis prevention measures in Yunnan province from 1950s to 70s.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史

キーワード：農村医療 プライマリ・ヘルスケア 日本住血吸虫症 中国 雲南省

1. 研究開始当初の背景

中国では19世紀半ば以降、医療宣教、租界や植民地を通して近代医学とこれを基礎にした衛生制度が導入されはじめた。20世紀初頭以降、中国政府もこれらを取り入れ、1927年に樹立された南京国民政府は、全国規模での衛生行政制度の整備を行うなど、積極的な受容を図った。

しかし、20世紀前半期においては、近代医療サービス、公衆衛生システムの導入は都市部に集中しており、人口の8割が居住する農村部は、近代的医療・衛生の面では相対的に立ち遅れた状況に置かれていた。

1949年に樹立された中華人民共和国は、1950年代から70年代、農村医療・衛生システムの整備・充実を図った。中国伝統医学と西洋医学を融合した治療技術などの短期訓練を受けた農村保健員である「はだしの医者」や、県・郷・村の三級制の保健サービスネットワーク、人民公社を基盤とした農村医療制度などを特徴とするこの農村保健システムは、1970年代には開発途上国におけるプライマリ・ヘルスケアのモデルの一つとして国際的に賞賛されるに至った。

国際保健史の文脈において、当該時期の中国の農村医療保健システムは極めて重要な意味をもつにも関わらず、これまで一部のモデル地域を除いて、その実態は十分に明らかにされてこなかった。その主な理由としては、資料が限定的であったことが考えられるが、近年、中国側の資料公開状況の進展や中国側研究者との連携が進む中で、こうした状況は改善されつつある。

2. 研究の目的

そこで、本研究では、建国以来の中国における農村保健システムの制度的展開を踏まえ、中国雲南省に関する一次史料およびインタビューなどから得られたデータを用いて、農村保健制度の地域社会における運用実態を明らかにし、現代中国における農村医療・衛生事業の歴史的展開を実証的に把握することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、雲南省大理地区における衛生行政文書、新聞・雑誌、当該時期に刊行された農村保健員用パンフレット、教科書などの歴史文献資料の収集・分析、雲南省における聞き取り調査で得られたデータ等を用いて研究を進めた。

4. 研究成果

(1)1950-70年代の農村保健の制度化過程の整理と建国初期雲南省における実態

中華人民共和国建国後、中央人民政府衛生

部は、「面向工農兵」、「予防為主」、「団結中西医」、「衛生工作群集運動相結合」の四大原則を打ち出し、広大な農村部も含めた医療保健サービスの全国的普及へと乗り出した。

これらの原則に基づき、1950年代から70年代、労働者や農民に対する医療保障制度、農村保健員の訓練養成と配置、村の保健員を末端とした県・郷・村の三級制の保健ネットワークを設立した。三級制の保健ネットワークや短期訓練を施した地元住民の保健員としての利用などは、中華民国期の農村建設運動の中でも見られたものであるが、中国共産党はこれを全国的に展開した。

本研究では雲南省大理地区における建国初期の農村保健員の状況について一次史料を用いて明らかにした。雲南省では1951年から53年の土地改革に伴い各地での農村保健員の養成が行われた。こうした村落への衛生人員への配置は、それまで医療資源に恵まれていなかった農村地域では一定程度の歓迎を受けたことが資料からはうかがえる。しかしその一方で、大理専区の事例からは、農村保健員の訓練・配置は必ずしもスムーズに行われたわけではなかったことも見えてきた。その過程では、訓練生の資質や半農半医としての待遇問題、基層保健ネットワーク内での訓練・再訓練を支える人材の不足などの問題が発生していた。

(2)1950-70年代中国農村保健システムに対する国際評価の変遷

1978年、WHOとUNICEFがアルマ・アタ(当時はソ連)で開催した国際会議において、開発途上国の保健衛生政策の一つとしてプライマリ・ヘルスケアという概念が打ち出された。プライマリ・ヘルスケアとは、住民のニーズに基づく保健、地域資源の利用、地域住民の参加、保健専門セクターだけでなく経済や農業セクターなどの分野との協力といった条件を持つものとされた。当該会議では、既にこれらが実施されている地域の一つとして、中国が取り上げられた。

そもそも冷戦下という当時の国際環境の中で、西側諸国にとって、中国という社会主義国の農村保健システムはどのように知られ、その評価はどのように変遷していったのか。本研究では、英語および日本語で書かれた1950年代から70年代の雑誌記事、出版物からこの経緯を追った。

1950年代~60年代、西側のメディアでは、中国農村保健に関する情報はあまり多くは見られなかった。こうした中で、いくつかの訪問記や中国の国内出版物に基づいた記事や論文、香港を経由しての情報などが散見された。1970年代はじめになると、中米関係、中日関係の改善を受けて、訪問記録や訪問先で得たデータをもとにした学術研究なども見られるようになる。

本研究で収集した資料から見た全般的な傾向としては、英語文献では、1950年代、一部の研究者による訪問記・見聞記では、中国農村保健に対する批判的見解が特徴的にみられた。そこでは、特に、大衆動員における強制性や、基層衛生員の技能への疑問が呈されていた。60年代後半～70年代、主な議論は中国の農村保健システムの自国農村や開発途上国への適応問題に移り、そのための条件分析の一環として、中国農村医療のコスト・ベネフィット分析などが進められるようになった。一方、日本語による文献の場合、中国農村医療の紹介者・記述者はたいてい「親中」的態度を有していた。こうした中で、比較的系統的に中国農村医療の現状を紹介・研究していたのが日本農村医学会であった。日本においては中国の農村医療の現状は、当時の日本の抱えていた無医村問題との対比で論じられた。だが、医療制度上の日中間の相違のため、日本への適用可能性を論じたものなどはほとんど見られなかった。

(3)1950-70年代雲南省における日本住血吸虫症対策

日本住血吸虫症は、日本・中国・フィリピンなどのアジア地域に分布する寄生虫病である。中国では、1950年代の段階で長江以南の12省市という広範な地域で流行が見られ、1000万人の患者、1億人の住民が危険に晒されていると見積もられていた。

日本住血吸虫症への本格的な対策は、中華人民共和国建国直後の1950年代からはじめられた。本研究では、上海交通大学および雲南大学との協力により収集した雲南省の日本住血吸虫症の流行推移および対策に関する歴史史料(行政資料や統計資料)を用いて、雲南省における日本住血吸虫症対策の実態を把握し、その特徴について考察した。

1950～70年代、中国の日本住血吸虫症対策の大きな特徴としては、広範な大衆動員、地域の衛生員や血防員の活用、政治運動からの強い影響および農業・農村政策分野との強い関連があげられる。

雲南省の統計資料からは、1970年代以降、中間宿主であるミヤイリガイの撲滅事業への動員人数の増加傾向、地域の基層衛生人員人数の増加、日本住血吸虫症患者数の遞減が確認された。

一方で地方行政資料の分析からは、とりわけ1950～60年代には、各種の日本住血吸虫症対策は、政治的・経済的変動の影響を色濃く受けていたことも見えてきた。大躍進運動や文化大革命の影響により対策の継続的実施が困難となる時期があった。また、流行地間の成果競争が激しく、1958年の江西省余江県での住血吸虫症撲滅をうたった毛沢東による漢詩「送瘟神」が発表されると、各地でこぞって撲滅宣言が出され、以後は対策やモニタリングが行われなくなり、しばらくの後

に患者が再発見されるという事態も見られた。

農業・農村政策分野との関連については、本研究では、日本住血吸虫症対策の一環として行われた流行地農村における糞便管理と農業政策との関連を中心に考察した。1950～60年代、愛国衛生運動や大躍進運動の中で「増産積肥」のスローガンの下、各地で便所の改良や糞便を用いた肥料生産が実施された。だが、雲南省の資料からは、もともとの村落における糞便に対する習慣の相違により、一元的な糞便管理の普及は困難であったことも明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

福士 由紀「建国初期中国雲南省農村医療服務的発展」李玉尚ら主編『中日血吸病流行與防治史研究』(上海:上海交通大学出版社、2014年(印刷中))

福士 由紀・窪田 順平「日本における中国環境研究・総説」人間文化研究機構現代中国区域研究項目編『日本当代中国研究第三輯』(北京:社会科学文献出版社、2014年(印刷中))

福士 由紀「歴史研究とエコヘルス」『医学のあゆみ』249(3)、2014、271-276頁

張 桔・段 会林・福士 由紀「生態人類学視野下白族漁民生計方式変遷與文化適応性」川端善一郎ら編『湖の現状と未来可能性』(松香堂、2014年)13-26頁

福士 由紀・田中 比呂志「華北農村訪問調査報告(4)」『東京学芸大学紀要2人文社会科学系』64巻、2012年、61-70頁

[学会発表](計3件)

福士 由紀「近現代東アジアにおける排泄・健康・環境」東京大学リベラルアーツプログラム、東京大学、2013年12月17日

Yuki, FUKUSHI, Human Feces Control and Shistosomiasis Prevention in Yunnan (1950s-60s), International Workshop on the History of Shistosomiasis in China, Shanghai JiaoTong Univ. China, 8th Oct. 2011.

Yuki, FUKUSHI, Rural Health System in China(1950s-1970s) and International Society, The 39th RIHN-China Workshop, RIHN, Japan, 20th Sep. 2011.

〔図書〕(計1件)

川端 善一郎・孔 海南・呉 徳意・福士
由紀・窪田 順平編 『湖の現状と未来可能性』(松香堂、2014年)総192頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福士 由紀 (FUKUSHI, Yuki)

総合地球環境学研究所・研究推進戦略センター・拠点研究員

研究者番号：60581288